

市民の目線で市民が発信する  
地域情報紙

WEB SHIMIN

# SHIMIN PRESS

## 市民プレス：号外

発行人 特定非営利活動法人  
「市民フォーラム」

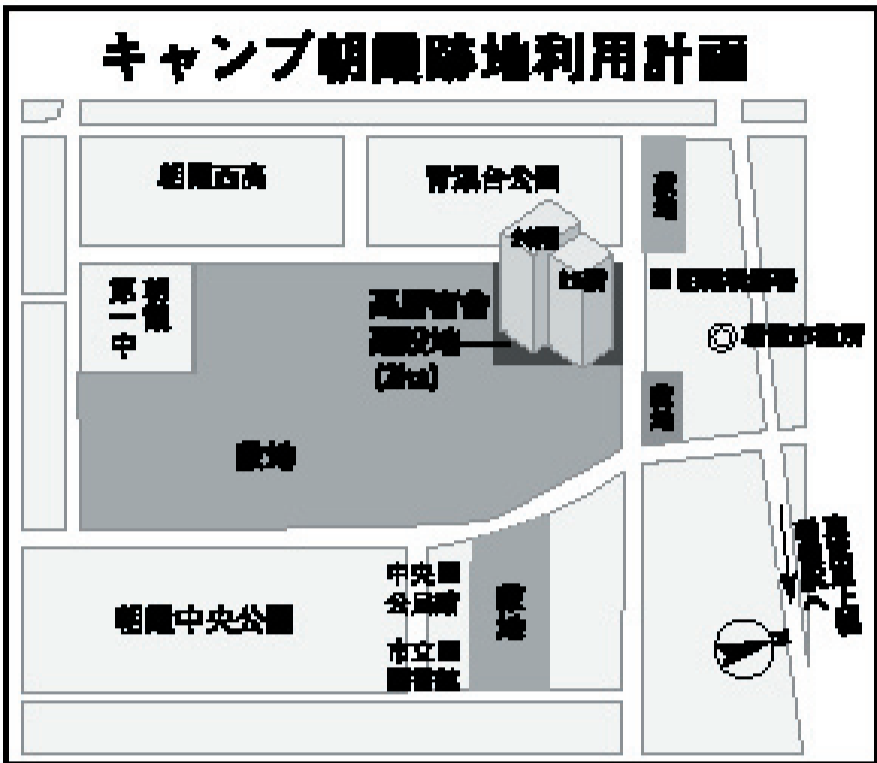
編集人 原 昭 二  
制作・印刷 デジタル工房  
FAX 048 (476) 9111  
〒353-0004  
埼玉県志木市本町 5-18-24

### 米軍朝霞基地跡地に 高層2棟850戸建設

6月26日、朝霞市は、国と県を交えた「基地跡地整備計画策定委員会」第4回合会で、跡地の中心部の北西角の3ヘクタールに、国家公務員宿舎として、26階建て(高さ約78m)と25階建て(高さ約75m)の高層住宅、2棟を建設する財務省案を受入れることを決めた。

財務省案によれば、宿舎は3分の1が家族用、残りの3分の2が単身者用で、2008年に着工、3年後の完成を目指す。中心部の残り13ヘクタール余りの用地を朝霞市が買取り、公園などを建設する計画で、市が求めている跡地の払い下げについては、今後朝霞市と国との協議が続けられる。

反発する市民は少なくない。市民感覚から懸け離れた決着に失望した市民は少なくない。跡地利用については議論してきた公募人による「市民懇談会」のメンバーは、一年あまりの議論は一体何だったか、という思いを深くかみ合っている。



今回の合意は、跡地の中心部の土壌汚染とその除去などの課題が浮上したため、国は建設予定地を積極的に中心部に移し、一方朝霞市は、今後に控えている多くの問題、特に財政的な課題を考慮しつつも、苦衷の色を隠さない。

市民感覚から懸け離れた決着に失望した市民は少なくない。跡地利用については議論してきた公募人による「市民懇談会」のメンバーは、一年あまりの議論は一体何だったか、という思いを深くかみ合っている。

敗戦によって米軍跡地の中心部の土壌汚染とその除去などの課題が浮上したため、国は建設予定地を積極的に中心部に移し、一方朝霞市は、今後に控えている多くの問題、特に財政的な課題を考慮しつつも、苦衷の色を隠さない。

敗戦によって米軍跡地の中心部の土壌汚染とその除去などの課題が浮上したため、国は建設予定地を積極的に中心部に移し、一方朝霞市は、今後に控えている多くの問題、特に財政的な課題を考慮しつつも、苦衷の色を隠さない。

返還された土地の一角に中央公園、総合体育館などを建設、この地域は大きな変貌を遂げた。

過去に遡ると...

朝霞駅前前は、昔はどろどろのどろろか。江戸時代、この辺り一帯は広沢の原と言われ、かやの野原、雑木林が続いていた。住民は原野を開墾して畑をつくり、作付けした。

日中戦争、太平洋戦争と続く農村では、男子は兵隊にとられ、農業に携わるのは女子と老人のみで、小学生までが農家に勤労奉仕隊を組織して手伝いをした。

田や畑を耕す人はいなくなり、雑木林を掃いて堆肥をつくる人もいなくなつて、荒れ果てた。

誰もが困っていたとき、政府の指令を受けた人々が、留守を守る女性や老人、子供の家を訪れ、被服廠の用地としての農地を買い占めていった。

印鑑をもって役場に集められ、政府の方針であると説明して、農地の譲渡を強制した。「坪当り一円五十銭で印を押させられた」そうである。長年耕作に当ってきた地主の関係者は、その頃を思い出していまも無念な思いに駆られている。

戦後敷地内に積まれていた物資は、米軍の進駐に備え、近くの農家の納屋に移されたが、終戦直後は無政府状態となり、混乱に乗じてこれらの物資を夜中に盗む人々の影は絶えなかった。滅茶滅茶な、そして浅ましい光景だった。

被服廠(ひふくしょう)は、軍人が身につける軍服、靴、鉄兜などをつくる施設で、戦争の拡大と共に本廠が手狭になったため、その分廠をつくることになり、東京近郊の朝霞に白羽の矢が立った。

軍事施設の一つ、「陸軍被服廠」が赤羽から朝霞駅前に移転してきたのは、太平洋戦争に突入した昭和十六年のことだった。

それより前、昭和二十九年に基地の一部(いまの市庁舎の部分)が返還され、県立川越高校定時制の校舎が建設されたが、昭和四十二年朝霞町は市政を施行し、四十七年には新市庁舎で業務を開始した。

大正三年に東武東上線が開通、「膝折駅」ができたが、二、三軒の商店のほかに見るべきものは無く、静かな農村だった。

用地の取得はじまる(基地跡地はかつて民有地であった)

資料...金子真 / 戦前と戦後の十年、「季刊にいくらごおり」第十三号(1979)

あさかの歴史(朝霞市史編三室編)、発行/朝霞市